

第68号

平成27 (2015) 年12月15日

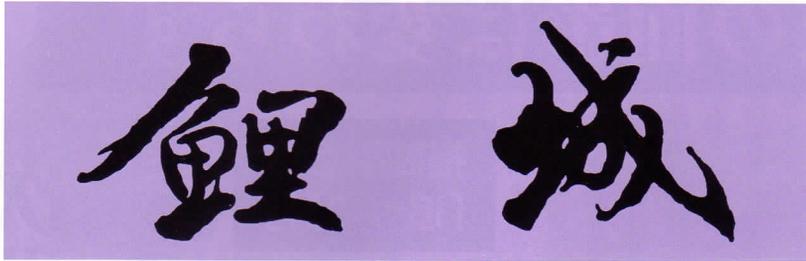
広島市中区国泰寺町1丁目2番49号
〒730-0042 広島国泰寺高等学校内

鯉城同窓会

電話(082)241-9777 FAX(082)248-7341

E-mail rijo@orion.ocn.ne.jp

URL http://www.rijo.gr.jp



題字は塩田宏司(洲鵬)氏

被爆70周年 記念特集号

369人の御霊を追悼

しめやかに一中慰霊祭

終戦・被爆から70周年の年だった。原爆死
没者慰霊祭をはじめ、鯉城同窓会のイベン
トや恒例行事などにも、節目の年を迎えた遺族、
関係者らの思いが、色濃く反映された。今回
の同窓会会報「鯉城」68号は「70周年」をテ
マに編集・発行した。

旧制広島一中の原爆死没者慰
霊祭が、7月26日、母校慰霊碑
前でしめやかに営まれた。あの
惨禍から70年。遺族や同窓生、
国泰寺高校生徒ら約350人が
参列し、犠牲になった当時の生
徒らの御霊(みたま)に、心か
らの祈りをささげた。

母校の河田敦之校長が、原爆
の被害の大きさに触れながら
「われわれは原爆の実相をしっ
かりと学び、行動していかなけ
ればならない」と追悼の辞を述
べ、同窓会副会長の福岡駿吉さ
ん(広島一中遺族会担当)、母
校校友会会長の大野健士さんの
2人が続いた。

この後、参列者は次々に献花
し、死没者の名前が刻まれた慰
霊碑に向かって、手を合わせて
いた。

慰霊祭には母校PTAコーラ
ス部「鯉城ステアコール」も参
加。「おなじ日は来ぬ」「折り鶴」
「鯉城の夕」などの歌声が会場
に響き渡った。

爆心地に近い旧広島一中で

は、生徒353人、教職員16人
の計369人が死亡した。慰霊
祭は毎年、広島一中原爆死没者
遺族会と、母校、同窓会の共催
で開かれている。

今回の慰霊祭は、報道各社の
注目を集め、地元紙中国新聞の
ほか、読売新聞、毎日新聞、さら
にテレビ各社が取材に訪れ、式
の様子が報道された。

慰霊祭に先立ち、広島市中区
の元安川ほとりにある慈母観音
像前では、原爆に命を奪われた
広島市内の旧制中学校、女学校
計19校の動員学徒約4千人の名
前を刻んだ銅板(縦30^{センチ}、横50^{センチ})41枚が公開された。主宰し
たのは旧制広島一中の遺族会
で、公開は40数年ぶり。

銅板は1966年に市内21校
の遺族有志の浄財で観音像を建
立した際、既に慰霊碑があった
2校を除く19校分が作られ、台
座に納められた。

この日は、15校の遺族ら81人
が参列。その足で、一中慰霊祭
に参列した人も多かった。



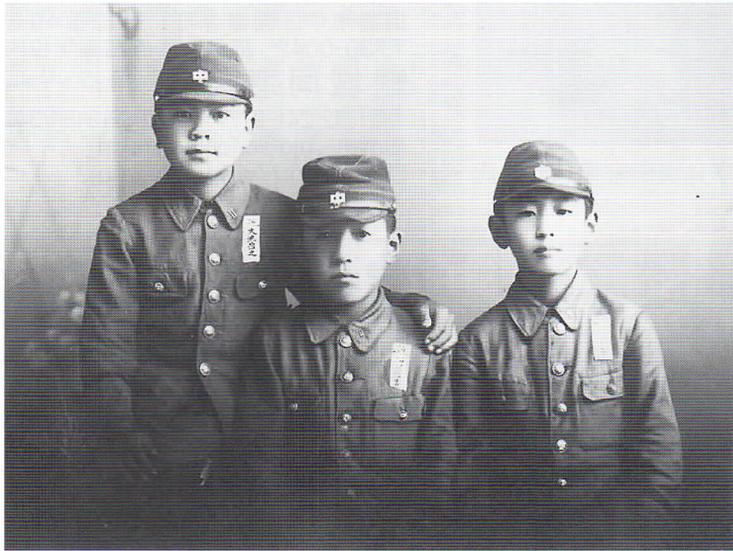
死没者の名前が刻まれた慰霊碑に献花し、頭を垂れる参列者たち

散りし友の面影は変わらず

次世代に託す願い 問い続けたい「人の尊厳」

福間副会長 「追悼の辞」

慰霊祭では、鯉城同窓会副会長（広島第一中学校遺族会担当）の福間駿吉さんが「追悼の辞」を述べた。原爆投下時に旧制広島一中2年生だった福間さん。死者を悼む気持ちとともに、平和への強い願い、若い世代への思いを込めた。



あれから70年。広島一中2年生当時の福間さん（中央）



同窓会副会長
福間駿吉さん

ゆうかりのものと
つどい友よ
ゆうかりのものと
散りし友よ
その面影は
今も変わらず

これは昭和49年に、原爆投下当時、広島第一中学校1年生であった「原邦彦くん」が被爆学徒の仲間（声）をまとめ発刊した「ゆうかりの友」の扉の献辞です。

あの日から70周年を迎える今、目の前には緑が広がり、子どもたちの笑顔が弾けています。

目を閉じ、しばし、私は思う。あの凄惨な広島（の歴史）を、私たちが、今日まで生かされてきた意味を問わずにはおれないのです。

被爆した学徒も年々高齢化し、当時の1年生も80歳を超えました。

私たちが現在できることは、「二度と同じ苦しみ（を）を繰り返させない」との思いを、次の世代に伝えていくことしかありません。戦争とは「人が人でなくなる」と「人が人としての尊厳をなくしてしまうこと」ではないでしょうか。

戦争体験のない若い世代には理解しにくいかもしれませんが、70周年という長い年月を経てもなお「戦争体験については話したくない」という方がおられるように、人の心が荒む一つの要因ともなるのです。

世界に目を向けると、映像に映し出される中東地域における破壊された街は、60数年前の日本の姿と重なります。戦争がいかに悲惨なものであるか、わが身、わが命がどうなるのか、不安におのきながら、今日まで生きてきた人がいます。

怒りの中で、あるいは悲しみの中で、生きてきた人がいます。特に広島では放射線により、過去に経験のない苦しみを負わされた多くの人がいます。

今年の平和祈念式典への参列国が120カ国を超え、平和な世界を創造するために努力を惜しまない国・地域が増えていくことは、戦後いち早く「恒久平和の希求」を掲げた広島（の歩み）が実り始めているようにも思えます。

しかしながら、長い平和な時の流れの中で、豊かさが私たちに忘れさせてきたものもあります。

グローバル社会の中で、国と国とが、お互いのことを理解し、決して侵さず、迎合せず、尊重し合う関係を作り上げることは困難ではあっても、重要なことだと思います。

今、若者が、民族の違いや文化の違いを超えて、お互いを理解し、尊重し合い、手をつなぎ合うことが、世界平和の実現に不可欠なことであると考えます。

考えの異なる者同士が声高に叫ぶのではなく「この国がどこに向かっているのか？」「真の平和な社会とは何なのか？」を、もう一度、一人ひとりが「国としてのありさま、人としてのありさまから、人としての尊厳とは？」に向き合うことが大切なのではないでしょうか。

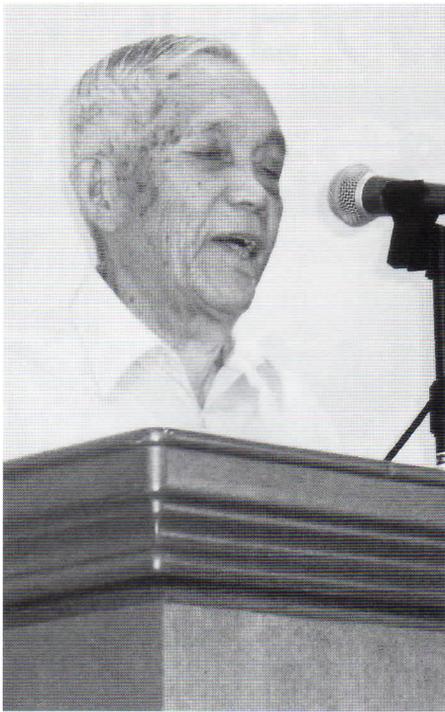
今、生かされている私たちが、目を見開き、学ぶこと。何が真実なのか、見極める力を持つことが、これからの生きる人たちに對する私たちの責務であると思います。

終わりに、私たちは、同じ苦しみ（を）を繰り返させないことをここに誓い「学び舎をともした仲間の御霊（みたま）よ 安らかに」と祈念し、追悼の言葉とします。

恒例のOB講演会が、7月8日、母校体育館で開かれた。今年の講師は、広島市のワールド・フレンドシップ・センター(WFC)名誉理事長の森下弘(もりした・ひろむ)さん(昭和23年卒)。節目の年に当たって、「被爆体験と継承への願い」の演題で、あの日の惨状や後輩たちに託す思いを語った。

森下さんは、昭和18年に旧制広島一中に入学した。講演の冒頭、受験当日のエピソードや、自分が時間を間違えて朝早く到着し、あわてた話などを披露した後、入学してからの思い出を、次のように話した。

「英語は敵の言葉ということに教えない学校もあったが、一中はもともと英語の学校。みっちりやっていた」「忘れ物をすると、罰で教室の掃除をさせられるなど、スパルタ教育の一面も」「時にはびんたを食らうこともあり、学校に行くのが怖かった時期もある」…。



被爆体験や後輩に託す思いを語る森下さん

OB講演会

核廃絶の願い継承を

WFC名誉理事長 森下 弘さん (昭和23年卒)

惨状の記憶今もまぶさまぶ

そんな学校生活も昭和19年の学徒動員令で一変する。授業がなくなり、工場で働いたり、農村で畑仕事に汗を流す日々を迎

屋疎開の作業をするために整理し、作業上の注意を聞いていた。原爆がさく裂。「ぎらぎらの太陽を見たように思った直後、「大きな溶鉱炉の中に投げ込まれたような」衝撃を受けた。すぐに地面に伏せて、耳や目を手で押さえたが、顔と手足を火傷していた。あたりを支配する不気味な静寂。後日、級友たちに

いるのが見えた。「自分の目がカメラのようになり、そんな光景が映っている、そんな感じだった」。そこから自宅のある白島まで、あちこちを迂回しながら歩いた。途中で目にしたのは、真っ黒こげの死体、皮膚を垂らして幽霊のような手つきで歩く兵隊、奇声を発したり、念仏を称えて

えた。原爆が投下された日の朝、3年生の森下さんら70人は、広島市の鶴見橋西詰(比治山の近く。爆心から約1.5km)で家

聞くと「体が吹き飛ばされ、地面に叩きつけられた」という証言もあった。しばらくして近くを流れる川の川辺に下りた。そこで出会った級友が「自分の顔はどうなっている?」と、森下さんに聞いてきた。見ると「彼の顔や手の皮膚はぼろ雑巾のように垂れ下がっていた」。悲惨な姿だったのが「自分の体がどうなっているのかはわからなかった」。

その後、よろよろと比治山に登り、頂上から市内を眺めると「見渡す限りの建物は崩壊し、あちこちから火の手が上がって

いる人…。ようやく自宅にたどり着いたが、家は崩壊し、焼け落ちていた。母親が家の下敷きになり、焼け死んでいたことは、後に知った。

郊外の知人の家に身を寄せたりして、森下さんは生き延び、戦後復学する。やがて大学進学を迎え、進路をどうするか考えた。「何か減じないものを追求したい」という思いから、文学の道を選んだ。大学に進んでからも、結核で休学するなど困難に直面したが、卒業してから教員としての道を歩み始める。その傍ら、アメリカ人の平和

活動家バーバラ・レイノルズが設立したワールド・フレンドシップ・センターの活動に加わった。講演では、その活動の一環として、原爆投下を命じた米国のトルーマン元大統領に会ったときのやり取りを紹介した。「トルーマンは『ああいうことがあり、残念だった』とは言ったが『すまなかった』の一言は、口にしなかった」

講演の終盤、後輩の在校生に対し、森下さんは「被爆体験の資料、文献、映像、被爆者の話などに触れることで、みんなに再体験をしてもらいたい。語り部になってもらいたい。ここが出発点になる」「原爆がなぜ投下されなければならなかったのか、皆さん自らが考え、学んでほしい」と強調。核廃絶の運動を担ってもらいたい、と締めくくった。

〈略歴〉

1955年広島大学文学部卒。広島県の廿日市、大竹高校などで国語・書道を教える。並行して平和運動にも取り組み、広島市西区のワールド・フレンドシップ・センター理事長などを歴任。島根大、広島文教女子大教授も務めた。

鯉城ステアコール

慰霊祭で今年も献歌



一中慰霊祭で美しい歌声を披露する鯉城ステアコールのメンバー

7月の一中慰霊祭の会場に、今年も女声合唱団「鯉城ステアコール」のしめやかな歌声が流れた。結成25周年を来年に控え、メンバーは「できるだけ長く活動を」と誓い合っている。

この日は21人が参加した。会発足のきっかけは平成3年だった。3年生の生徒の母親たちが「子どもたちが卒業したら、学校とのかかわりが薄くなる。その後も母親が交流できる場はないだろうか」と話し合う中で、合唱団結成のアイデアが出た。

当時の福谷昭二校長をはじめ、PTA会長らのバックアップを受けて、活動がスタート。以降、在校生の母親が新たに加わる形で活動が継

続している。歌唱指導に当たっているのは、会発足時、定時制で音楽の非常勤講師をしていた松谷（旧姓城戸）恵さん。「メンバーの入れ替わりはありますが、いつも和気あいあい。でも一中慰霊祭での献歌は、準備段階から神経を使います」。毎

週土曜日、同窓会館に集まって練習する。活動を見守り続けてきた元校長の福谷さんは「まさに継続は力なり。会員の方の熱意としっかりした組織力が、その秘訣なのでしょう」と話している。

10人が参加し 2回目の会合

北海道鯉城設立へ

昨年について、第2回目の北海道鯉城設立準備委員会を11月14日、札幌市で開いた。会場は、白石孝信君（平成7年卒）が今春開いたステーキ、しゃぶしゃぶの店「プロカント」。札幌市在住者を中心に、白石君を含め10人が参加した。

平成卒が7人、昭和卒が3人。年齢は18歳から58歳まで、その幅はずいぶん広がった。おいしいステーキを食べながらの準備会は、あつという間に2時間が経過。そこから会場を移して、広島県人の女性が発案するパフェで再び話し込んだ。結局、次回は来年6月18日に広島県人会を開いた後、11月5日に第3回準備会を開くことを決めて散会した。

昨年と同窓会会報67号に掲載された第1回準備委員会の記事や、広島県人会の常任理事を務める上向昇君（昭和61年卒）の人脈の効果のせいで、今春北海道大学に入学した時慶太郎君（平成27年卒）や、高知県の大学から北海道放送に入社した長沖涼花さん（平成23年卒）ら新たな顔ぶれも加わった。卒業時期で言うと

なお筆者の私は、今年6月に愛媛県宇和島市から北海道帯広市に移住した。北海道在住の方がおられたら、北海道鯉城設立準備委員会代表も兼任する上向君（札幌市でお好み焼き店「しずる」を経営）に連絡を。☎011(896)0426

（昭和51年卒 吉近利枝）

鯉城関西同窓会総会

3月6日(日)

開催 11:00

ホテル大阪ベイタワー

中 平成28年度

総会

日時 11月12日(土) 17:00

場所 リーガロイヤルホテル広島

当番幹事 平成5年卒業生

鯉城東京同窓会総会

5月11日(水)

開催 18:30

(財)水交会 東郷記念館

母校の支援と同窓会活動の活性化を目指して、「鯉城同窓会サポーター制度」が発足した。制度発足に至るいきさつや具体的な内容について、同窓会の八木忠士会長に説明してもらった。



鯉城同窓会
八木忠士会長

平素は同窓会活動に、ご支援ご協力を頂き、感謝とお礼を申し上げます。

鯉城同窓会が発足して57年になります。

この間、会報誌の発行や当同窓会念願の同窓会館を完成させるなど、多くの諸先輩、同窓生の皆さまに支えられ、同窓会活動の基盤の確立に向けて着実に歩んで参りました。

同窓会の使命は、同窓生の福祉向上や母校への支援等にあります。

しかしながら、昨今の社会情勢の中では、同窓会を取り巻く環境も少しずつ変化が起きていると考えます。

同窓会は、基本的には卒業生による会費（入会費及び年会費・終身会費）によって運営されています。その終身会

費（昭和54年制定）も平成元年卒業生から卒業時に、入会費と終身会費を同時に納入し

員会の定時制課程及び通信制課程の統廃合計画に沿い、平成30年以降は母校の定時制課程が閉校になると伺っており、新入会員の減少等により同窓会活動にも影響が出ると予測しています。

今日まで母校からの支援要請に比べ、文武両面で、広島県内はもとより、全国レベルで活躍する諸活動に対し、限られた財源の中から、一部の活動に対し支援して参りましたが、まだ十分とは言えません。

つきましては、同窓生の皆さまには、大変なご負担をお願いすることになりますが、「鯉城同窓会サポーター制度」として、年1回、1口1千円（2口以上歓迎）のサポートを頂きますよう、ここにお願いを申し上げます。

母校支援と同窓会活動の活性化へ

サポーター制度発足

年1回、1口1000円カンパを

て頂く等、財政面での安定した資金源となっています。

一方、それ以前で、70歳までの会員の内、約5千人余りの終身会費が未納入となっており、今後の納入について、

会報等を通じて納入のお願いなど努力をしておりますが、かなり厳しい状況にあります。

また、現在進行している少子化問題は、母校の今年度新入生の定員が40名減少し280名に、又、母校定時制（1学年約40名）が、教育委

減、健全な財政運営に努めておりますが、会報誌の発行や二木会運営等等固定経費も多

今後更に、母校支援、同窓生の活動支援等の範囲も広げ、促進して参りたいと思っ

是非、同窓生の皆さまのご理解とご支援・ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

叙勲・特別賞を総会で表彰

平成27年度、各種の賞を受章された同窓生の方々を、11月21日の総会で顕彰した。

《叙勲・褒章》

- ▽瑞宝双光章（教育功労）
昭和37年卒 船橋孝昭
（平成26年春の叙勲受章）

《会長顕彰》

- ▽功績（国会議員）
昭和24年併卒 亀井郁夫
- ▽功績（地方自治）
昭和25年卒 新田篤実
- ▽功績（同窓会振興）
昭和25年卒 田村鋭治
- ▽功績（同窓会振興）
昭和26年卒 日山隆司
- ▽功績（同窓会振興）
昭和34年卒 桑野恭彬
- ▽功績（同窓会振興）
昭和35年卒 伊藤暉
- ▽功績（地方自治）
昭和35年卒 碓井法明
- ▽功績（同窓会振興）
昭和36年卒 土井敏正

閉館迎える映画館の姿描く

「シネマの天使」 全国で一般公開

時川さん(平3年卒)が監督

映画監督・映像作家として活躍する時川英之さん(平成3年卒)が、映画「シネマの天使」を発表。11月7日から全国公開(広島では10月末から先行公開)された。

作品の舞台は、閉館が決まった老舗映画館。そこで働く新人女性社員、映画作りを夢見るバーテンダーの青年らの思いが絡み合う中、閉館の日が近づく。そして当日…。モデルになったのは、広島県福山市にあった日本最古の映画館「シネフク大黒屋」。



自らが監督した映画「シネマの天使」のポスターを手にする時川さん

の思いを作品に投影した。

映画館の取り壊しに伴い、時川さんに撮影依頼の話があったのは昨年6月だった。取り壊しは9月半ば。「短編映画を作りましょう」という提案をしたのは7月に入ってからだった。それから脚本づくり、出演俳優の決定、撮影と「超」がつく強行スケジュール

ルに挑んだ。
「普通ならとてもできませんよ。僕自身、監督、脚本、編集の3役をこなすのですから、大変でした」

高校時代はサッカー部に所属していた時川さん。東京の大学に進学し、3年を終わった時点で、カナダの映画学校に1年留学した。もともと好きだったビデオによる作品づくり。「自分に才能があるかどうかを確かめよう」と。その1年で進む方向を見極めた。大学卒業後は、広告代理店、海外テレビ局で働いた後、日本でドキュメンタリー、映画、CMなどの映像作品を手掛ける。4年前に広島に帰って

きた。
昨年は時川さんら平成3年卒生が当番幹事を務めた。その時、応援歌「鯉城の夕」をテーマに、同期であるかつての応援団長、サッカー部のキャプテンが登場する映像作品を制作するなど、同窓会活動にも貢献している。

「シネマの天使」関連では、最近ショックなことがあった。それは映画の公開直後、出演俳優の阿藤快さんが急死(11月14日)したこと。時川さんは「存在感のある大きな体から、映画への愛がにじみ出るような方でした」と、故人の手柄をしのびながら、痛切な思いを語った。

初年度の奨学生に 在校生ら12人選ぶ

同窓会
奨学財団

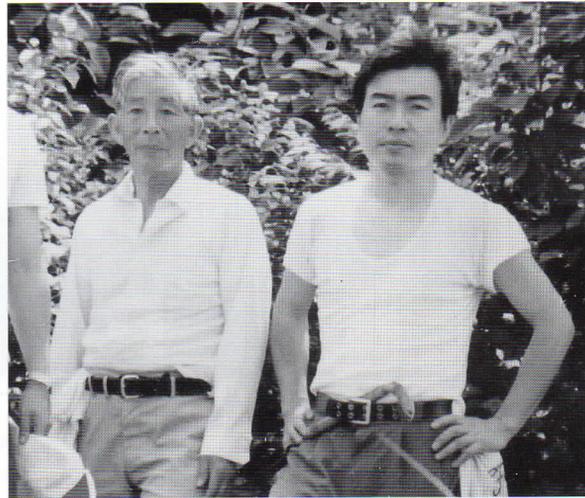
昨年設立された鯉城同窓会奨学財団は、初年度に当たる平成27年度奨学生(卒業生2人、在校生10人)を決めた。卒業生の2人は、それぞれアメリカと日本の大学生。在校生はいずれも海外派遣を通じて、異文化交流や研究交流を深めることを目的にしてい

る。
初年度の奨学生のうち、アメリカミネソタ州の大学で数学者を目指している中島亜々音さんは、「生活費と家賃を賄うために、食堂で働いたり、近年では大学内の警備員として夜遅くから朝方まで働いていました」と苦学の状況を語

り「奨学金のおかげで、学問に集中できるようになり、非常に感謝しています」とコメント。
広島大学理学部で量子コンピュータ研究者を目指す井田健二郎さん(広島県安芸郡海田町)は「奨学金のおかげで、金銭面で将来の見通しをつけることができました。特に自分は大学院に進む希望をもっているのが本当に助かります」と話している。

山野を歩いて 植物学教わる

忘れえぬ越智先生



1977年夏、越智先生⑤とともに広島県の恐羅漢山に登る

昭和43年卒 吉本 悟

(日本漢方交流会理事、
広島漢方研究会副会長)

昭和43年に国泰寺高校を卒業し東京の薬科大学に進学して薬用植物学(生薬学)教室の研究生として活動しました。漢方薬を含む薬用植物の研究するうちに一般植物との区別が難しいことに気がつきました。

大学卒業後、当時では珍しかった漢方調剤専門の医院に3年間勤務し広島に帰郷。帰郷後、植物を観察していた時

に高校時代の恩師であった越智諷武(おちしずたけ)先生にお会いしました。

生物の先生でしたが高校時代にほとんど会話をしたことがありませんでした。

それ以降、越智先生に案内していただき広島野山を歩きました。現在の一般植物学の知識のほとんどは越智先生から教わりました。ある時、車中でこんな話を聞きます。

植物学の大家であった牧野富太郎先生が広島に来られた時に東京大学の理学部助手に

ならないか?との誘いがあつたとのこと、つまり牧野富太郎先生の下で働かないか!ということらしい。越智先生はしばらく考えてお断りしたそうです。

私はなぜ断つたのですかと聞くところ答えられました。幼子のいる家庭があり生活できないと思った一言、葛藤があつたに違いありません。休日のほとんどは越智先生とあちこちに出かけました。

ある時、越智先生からこんな電話があります。「吉本君、最期に万古溪に連れて行つてくれないか?」ええ!最期とは?心中穏やかでない気分でしたが車中で事情を聞くと息子さんの住む静岡県にご夫婦で移住するので最期に廿日市の万古溪を見ておきたいとのこと、越智先生80歳を迎えられた頃の話です。

万古溪にお連れしました。車中で国泰寺高校生物クラブの優秀賞記念バッチを手渡ししてくださいました。うれしかったですね。それから4年後、風の便りに越智先生の亡くなられたことを聞き、心よりご冥福をお祈り申し上げた次第です。

(広島県安芸郡府中町)

平成26年度決算報告 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

I 一般会計の部

(単位:円)

収入の部		支出の部			
前年度繰越金	6,194,289	会報費	2,419,097	備品費	0
入会金	981,000	事業費	207,416	慶弔費	8,904
終身会費	2,919,000	HP管理・会員名簿管理費	77,032	雑費	39,000
年度会費	23,000	会費請求システム維持費	304,248	顕彰費	71,280
寄附金	115,400	助成金(二木会等)	900,000	CD(校歌等)複製	0
利息収入金	164,068	事務費	1,212,000	修繕費	0
50周年CD販売入金	3,000	消耗品費	135,605	母校振興費	0
雑収入	310,610	印刷費	351,188	税金	0
二木会・総会剰余金	600,000	通信費	282,157	慰霊碑献花代	42,120
		会議費	234,036	事務管理費(会館清掃委託)	121,225
		水道・光熱費	102,693	次年度繰越金	4,802,366
収入計	11,310,367	支出計			11,310,367

II 基金

1 鯉城同窓会基金

(単位:円)

前年度繰越金	7,000,000
同窓会館建設特別会計からの戻入	7,079,757
奨学財団基本財産への寄附	3,000,000
次年度繰越金	11,079,757

2 教育振興基金

(単位:円)

前年度繰越金	16,500,000
次年度繰越金	16,500,000

結

書は平成4年卒
曾江井貴士さん

窓会・総会



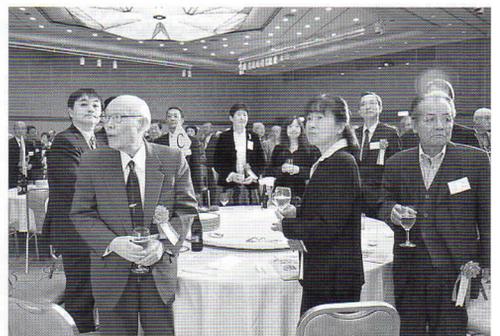
八木会長挨拶



ビッグ・バンド（吹奏楽 OB）の演奏



今年の栄えある表彰者



恩師の団結



女性陣も輝いています



この度の総会に際しましては、ご多忙のところ、各方面よりお越しいただきました事、並びに、心温まるお言葉や広告等のご支援を頂きました事、代表幹事と致しまして厚く御礼申し上げます。何分、若輩でご迷惑をお掛けした事とは存じますが、多少なりとも母校に奉公できた事を大変嬉しく思っております。

我々当番幹事は、この4月より、テーマを「団結」と掲げて活動をして参りましたが、当日は同期生も県内外各地から大勢駆けつけてくれ、多数の恩師、先輩方、後輩たちに囲まれ、また一つ団結の和を広める事ができました。本当に



100周年「球史ここに始まる」



応援団の心強い団結



乾杯の音頭 (昭和40年卒)



当番幹事 (事務局長) の挨拶



在校生へマリンバを寄付



心はいつも高校3年生・・・



来年もまた会おうね



1915年から高校野球1

同窓会

鯉城同

ありがとうございます。
この同窓会活動のお手伝いをさせていただいてから、あっといいう間に8カ月が経過し、残り僅かなのは少し寂しい思いもありますが、平成4年卒業生一同、残された期間、これまで以上に一致団結し、精進して参る所存ですので、これからも何卒皆様からのご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

平成4年卒 代表幹事

橘 信一



私の近況

GANBARISM

昭和35年(定)卒 蒲原敏博

昭和35年に定時制を卒業して、今年で55年が経ちました。この9月には、5年ぶりの同窓会が開かれ出席いたしました。卒業当時3クラス139

名の卒業生のうち、女性20名を含めて45名が参加の大盛会でした。恩師の横田二郎先生をお迎えして、時の過ぎるのを忘れて、楽しくなつかしいひと時を過ごしました。

今年4月で、長年務めさせていただいた県会議員を引退してから、公務や諸行事に煩わされることもなくて、静かでのんびりとした毎日を送っていますので、今回の同窓会は、久しぶりに緊張感のある有意義なものでした。昨年、後期高齢者の仲間入りをしましたが、同級生のうち、すでに20名余りの方が他界されており、身につまされる思いでした。

今のところ、年相応の体力の衰えは否めませんが、特段悪いところもなく、薬の代わりに好きなお酒を毎日嗜んでいます。少しでも元気で長生

きてきたらという思いで、自然や人の命を大切にす風水の勉強をはじめた今日この頃です。

(広島市東区中山新町)

昭和36年卒 中田千穂子

ベルリンに住んでかれこれ40年になります。ドイツ語圏の主要な音楽祭やオペラ座の公演を観てはせつせと評論を書いて日本の新聞や音楽雑誌に寄稿することが私の日課となつています。この夏のバイロイト音楽祭での斬新な演出によるワーグナーの楽劇「トリスタンとイゾルデ」や来年5月に来日するベルリンフィルのベートーヴェンの交響曲全曲等の批評が我が祖国日本の音楽界で大きな反響を呼んだことは嬉しい限りです。

今年には戦後70周年の節目の年でありました。ドイツはヨーロッパ大陸の中心に位置しているが為に日本とは極めて異なる政治史が繰り広げられてきました。そして帝国主義によりドイツは未来永劫の罪を背負ってしまったので

す。今年はまだ、東西ドイツ統一25周年でありました。2011年に原子力エネルギーからの撤退がドイツ議会で可決された事は歴史的な出来事でした。そして今、メルケル首相が難民受け入れに踏み切ったのです。多難な問題を抱えたドイツですが、このエネルギーが日独友好に貢献する私の励みとなっています。

(ドイツ在住)

昭和36年卒 山成宣彦

復活した修道、広大付属、国泰寺の3校によるサッカーOB対抗戦が10月30日、千葉県東大検見川グラウンドで行われ、招かれて行って来ました。

東京鯉城同窓会会長の山縣さん(昭33年卒)、事務局長の寺山さん(昭44年卒)夫妻、東京鯉城蹴球団団長の松山さん(昭32年卒)をはじめ、田村(昭59年卒)、篠塚(平16年卒)の女性2名にサッカー部OB29名とその家族ほか多数の方々に参加して下さい、20分を2回行う変則リーグ戦

で優勝を争いました。

天然芝の上で、試合は最終戦を前にして国泰寺、修道ともに勝ち点4で並び、得失点差3で修道にリードされましたが、最終戦の広大付属をひっくり返す大逆転で2連覇を飾ることができました。

試合後は、検見川駅前の焼肉屋に移動して、世話人の小林君(昭59年卒)による乾杯の音頭で3校揃つての懇親会がにぎやかに行われました。

その後、場を変えて内輪の二次会では2連覇の喜びを分かち合うとともに、近況報告と思い出話に花を咲かせて、遅くまで楽しい時間を過ごさせて頂きました。

懐かしい顔を久しぶりに目にし、活躍の様子を見聞きして、大いに元気をもらった一日でした。

(広島市中区南竹屋町)

昭和39年卒

ドメーニグ・土井美生子

11月に開催された広島国際映画祭のお招きで日本プレミ

ア上映の機会を得た映像作家の娘と共に帰りました。娘

のドキュメンタリー映画『太陽の落ちた日』では原爆投下直後から被爆者を治療した日赤の内科医であった祖父の内面に迫ろうと、同じ様な体験をした元看護師や医師へインタビューを重ねていく。しかし当時の祖父を記憶している人は無く「経験した者にしか分からない」と沈黙し続けた祖父の原爆体験を描く事はできない。撮影中に起こった福島第一原発事故から放射能被害をめぐる現実がヒロシマの歴史と繋がることに気づく。さらに被爆という経験がこれらの登場人物たちをどのように変えたのかを知るために丁寧に話を聞き、これからの私たちの生き方を考える。このドキュメンタリーは原爆と原発を繋いだもので大まかに要約すればこの様な内容です。

監督の娘にとつては日本の撮影は何かと困難も多く、加えて福島原発事故により途中で内容を変更せざるを得なくなったため完成までに5

年という長い時間を必要としました。このプロジェクトの制作アシスタントとして私も何度か来広し多忙ではありましたが充実した広島での時を過ごすことができました。

2015年初夏に映画が完成しロカルノ国際映画祭で世界プレミア上映されました。

ヨーロッパではヒロシマ、フクシマはほとんど忘れられていたのですが映画は予想以上に好評で一安心しました。映画は完成すると監督の手を離れた一人歩きを始めます。様々な映画祭、上映会など、世界中を旅します。ヒロシマからの、そしてフクシマからのメッセージがこの映画を通じて多くの人々のもとに届くよう祈念しています。映画祭の様子は以下のリンクでご覧下さい。

<https://www.facebook.com/alsiesonnevomhimmel/fel/>
(スイス チューリヒ市在住)

昭和42年卒 川端由美

神戸に住んで43年になる。広島に住んでいた期間よりはるかに長い。それでも不思議なもので、愛着は断然広島の方が強い。無条件で懐かしい。実家は無人になったが、

広島在住の同級生のおかげで、年に何度かは帰広することが出来る。みんなには、本当に元気でいてほしいと思う。神戸では、まだ現役で仕事をしている。いつ幕を引くのかを自分で決めなくてはならないようだ。なんとなく、楽しいうちは続けようと思っ

ている。縁あって、鯉城関西同窓会に席を置かせてもらっている。この同窓会も、来年3月で満10周年を迎える。今はここで「連句の会」「ワインで遊ぶ会」「歩こう会」など気ままに参加させてもらっている。単に同じ高校を卒業したと言っただけの縁で、何の説明も要らずストンとつながっていく。これが、同窓ということの醍醐味だと思っ

感謝している。
(神戸市垂水区)

昭和45年卒 山田陽子

私のイタリア生活も早や30年になりました。思えば国泰寺高校2年生の体育授業で膝の半月板を損傷する怪我をし、将来は体育の先生になる夢を断念、美術も好きだった私は東京の女子美短大に入学する事にし、無事に卒業も

き、偶然主婦と生活社の週刊女性編集部

に職を得ました。マスコミでの仕事も楽しかったのですが10年過ぎた頃海外生活をしたいと思うように。一念発起しイタリアに渡航、初めてのイタリアは明るく陽気

で、私にピツタリ、すぐに住みたいと、フィレンツェに居を構えました。生活、言葉に慣れた頃、日本でイタリアブームが起

り、ガイドの仕事をする事に。イタリア中を沢山のお客様を連れて周りま

昭和50年卒 萩原正明・美代子(旧姓松浦)

私達は同級生夫婦です。来年の還暦学年同窓会をとて

が、娘は卒業生ではないので大変ためらわれておりました。

娘は5年前のジュネーブ国際コンクールでの優勝でピアノニストとして音楽人生が始まり、大先輩でいらっしやいます原田康夫先生(元広大学長)や同級生、先輩方に応援していただき、大変ありがたく心から感謝いたしております。

わが家はクラシックとはまったく無縁の普通のサラリーマン家庭です。正明の「ま」と美代子の「み」を取り名付けた麻未は、5歳の時から「ピアノニストになる」夢に向かっていたが、実現するとは想像もしていませんでした。同級生からも「とんびが鷹を生んだ(笑)」と驚かれましたが、まさにその通りです!

素晴らしい先生方との出会いがなければ娘の今はありませんし、高校1年(バリ留学)の間、3か所からの奨学金に助けられ、音楽の勉強が続けられたことも大変感謝いたしております。

娘は子どものころから変わらぬ純粋な心と強い精神力を持ち続け、音楽と真摯に向き合う日々を過ごしているよう

です。お心にとめていただけましたら大変ありがたく存じます。

昭和51年卒 酒井文一

(広島市安佐南区毘沙門台)先週11月21日の土曜日、毎年恒例の鯉城同窓会総会に出席しました。懐かしい顔に再会するとともに、毎年新しい出会いがあります。同期会にはない楽しみです。

さて私は税理士事務所をしておりますが、来年から導入される「マイナンバー」への対応で、忙しくしております。一昨年から講習会で勉強を始め、現在はお客様への案内やセミナー開催をしております。マイナンバーの誤配達や詐欺の記事も出ておりますが、導入が決定している以上、いたずらに恐れるよりもできる範囲で最善の努力をするしかないでしょう。

また消費税の軽減税率導入も税理士として関心があります。税理士会では単一税率を要望していますが、賛否両論あるところです。

その他、世の中は大きく変わろうとしています。時代の流れに乗って、焦ることなく心穏やかに暮らしたいもので

す。また来年、同窓会総会で会いましょう。

(広島市中区大手町)

昭和55年卒 仁野克明

国泰寺高校を卒業した後、昭和62年に福岡県立九州歯科大学を卒業いたしました。歯科医師としてすぐに広島に帰って来ました。現在は中区八丁堀で平成2年より仁野歯科として歯科開業医しております。大学生時代にお付き合いを始めた妻は宮崎県出身ですが、卒業と同時に私どもは結婚をして、現在妻は同じ歯科医師として、西区三篠町でドーン歯科を開設しております。

さて、国泰寺高校は今も昔もとても結束の強い学校でありまして、大学の同窓会としてでは無く国泰寺高校卒業の歯科医師は出身大学を問わず、国泰寺高校歯科医師会という会で年に2回程の会を催しております。大学を問わないものでありますから、全国の国公立や私立を卒業して、歯科医師ならば誰でも参加が可能な会であります。

毎回色々なゲストをおまねきして講話をいただいております。それは現在の国泰寺高

校の校長先生であったり各分野のエキスパートの方であったりします。会では広島市だけでなく無く因島市の先生にも参加を頂いて皆で仲良く会食しております。

もし、国泰寺高校を卒業し歯科医師になったのにこの国泰寺高校歯科医師会の事を御存知ない先生がおられましたら、私にお知らせいただければまた会にお誘いしますのでお知らせください。

(広島市西区三篠町)

平成4年卒 園山哲平

2015年は、ラグビー日本代表が、ワールドカップ優勝候補の南アフリカ代表を撃破した年として、後世まで記憶される。実力差がそのまま得点差に現れ、番狂わせが極めて起きにくいのがラグビー、という世界のスポーツ界の常識を、日本代表は蹴散らかした。

歴史に残る勝利の直後から、これがどれほどの偉業かを、ラグビーに詳しくない人々に伝えるべく、ネット民達が様々な比喻を発信した。

「ドラゴンボールでいうとクリリンがフリーザを倒すようなもの」「桐谷美玲が吉田沙

保里に勝つようなもの」「お前がHIROから上戸彩を奪うようなもの」「将棋なら奨励会六級が加藤一二三に勝つようなもの」「醤油が砂糖に勝つようなもの」「グーがパーに勝つようなもの」。うーむ。偉業だ。

スポーツ観戦オタの私にも、友人達から、どれくらい凄いこと?と質問が寄せられた。都度、私は答えた。「我が母校広島国泰寺高校の野球部が甲子園に出るようなものだよ」。野球部の後輩諸君、奇跡でなく必然と言える努力があれば、百年ぶりに君らの出番だ。

(川崎市川崎区)

平成11年卒 桐子雄志

国泰寺高校を卒業して16年、初めて投稿させていただきました。

現在、私は薬剤師として関西で調剤薬局に勤務しております。店長兼サブマネージャーを務めております。また、ご縁があつて地域薬剤師会の役員を拝命し、会の運営にも携わっております。まだまだ若輩者ですが、上司や部下に恵まれてたくさん経験を積ませていただいております。今、取

り組んでいることは部下の育成と薬剤師が在宅医療に関わっていくことを目的とした地域連携構築の推進です。住まいは大阪市内ですが、仕事の管轄エリアは京都になります。

住居も職場も交通の便が良かったため、休日はUSJや歴史的な建築物など関西の有名な観光地に行っています。最近楽しんでいっていることは、異業種の方との交流です。薬剤師は薬局内だけで仕事が完結してしまうため、世界が狭くなってしまうと思います。いろいろな方との交流が自分の人生に厚みを増してくれていることを実感しています。

(大阪市淀川区西宮原)

平成19年卒 寺田友梨香

この度は、このような機会を与えていただきありがとうございます。まだまだ若輩者で経験も浅いため、どのように書こうかと迷いましたが、せっかくなので、当時の自身を振り返りながら書かせていただきます。高校生の頃の私は、とにかく毎日、部活動のことしか考えていないような生徒でした。小学3年生から現在も続

けているバスケットボールをすることが何よりも楽しかったのを覚えています。大学を卒業してから現在までは、母校の広島国泰寺高校で勤務させていただいています。また、女子バスケットボール部の指導もさせていただいています。部活動の練習中に、「結果よりもまずは内容が大事」という話をよくします。何事もそうですが、自分の夢や目標を達成するためには、毎日の地道な努力の積み重ねが必要なんです。どのような結果になっても、それまでの過程が後悔しない内容であれば次に繋げることができると思っています。

これまで、一人の卒業生として何らかのかたちで母校に関わっていきたくないとずっと思っていました。そんなときに、諸先輩方に声をかけていただき、微力ながらもバスケットボール部OBORG会の幹部をさせていただくことになりました。主に、年に1、2回のOBORG会の企画をし、現役生も含め様々な世代間での交流ができるように考えています。高校を卒業してから現在までの約9年間、母校には本当に世話になりました。



米寿の16人 最後の集い

昭20年卒

昭和3(辰年4(巳)年に生まれ、満州事変以降、15年にわたる「戦争」の時代に育ち、学び、4年生で消防署や兵器工場へ通

同期会だより

今後、広島国泰寺高校の益々の発展を願いながら、母校での経験を活かして日々成長していきたいと思えます。
(広島市中区富士見町)

平成21年卒 大西栄祐
私は、この3月に大学院を

修了し、4月から母校である広島国泰寺高校で教員をしています。科目は数学で、日々授業づくりを研究しています。ただ単に教科書の内容を教えるのではなく、どのように教えたら生徒は興味を持ってもらえるのか、また、どの内

容を生徒に考えさせるのか、どのように問いかければいいのか等、毎日授業のことを考えています。久々に戻ってきた母校は、懐かしく思いました。教室の雰囲気や挨拶など、私が学生のときと変わっていませんで

した。その反面、同窓会館や学校の備品など、少しずつ変わっているところもありました。また「数年前までは、その机に座って授業を受けていたんだな」と少し寂しくなります。

目。まだまだ学ぶことがたくさんあります。これからも、生徒にとつてわかりやすい授業ができるように、毎日授業を研究していきます。そして、広島国泰寺高校の歴史を伝えていきたいです。
(広島市安佐北区三入東)

年動員されて昭和20年3月、特令により4年で卒業(第70回卒業)しました。原爆被災、世界史にも稀な無条件降伏という社会の激変の中で成長し、「日本国憲法」のもとで物質的には豊かな経済成長の時代の中核として生き抜いて来ました。

卒業50周年は被爆敗戦の50周年でした。100余名の同期生が集い、記念誌を発刊しています。今年70周年は消息確認は58名となりましたが10月10日リীগロイヤルホテル竹の間に16名が出席して「米寿の宴」を開きました。先立つ友に追憶の黙祷を捧げ、老いの身の現状を語り合い、鯉城の夕を合唱して3時間の宴を終えました。第70回卒業生の同期会辰巳会は卒業70年

東京同期会 めざせ100歳

昭25年卒

をもって活動を閉じますが、鯉城同窓会は永遠です。一層のご発展を心より念じて報告いたします。
(橘 正澄)

11月1日、一期生東京在住者の同期会、7人参加で、盛会でした。東京在住者は今年1人亡くなり今10人です。そのうちお二人は外出はちよつと無理という体調です。だからすごい参加率なのですが、今年も広島から上京して参加の方がありません。大いに盛り上がりました。
広島から参加された渡辺さんは旧姓栗村、いま東京にお住いの水戸(旧姓多山)さんと軟式



テニスで常勝のコンビ、まさに当時の国泰寺高校の「女王コンビ」で、このお二人揃つての参加で、男性もニコニコしておられました。

この年になると、どうしても病気の話になりがちですが、当

同期会は、少ないメンバーなのに医者が二人。即席相談会も始まります。「こうなつたら100歳まで頑張ろう」という声もあがりました。一期生の広島での同期会は終了しています。東京に広島の友人を誘おう

年間通して 友好深める

昭31年卒

2016年は半年繰り上げ、春にいたします。一期生で広島や大阪などにお住まいの方、よろしければご参加ください。歓迎しますよ。
(関 千枝子)

山歩き・ゴルフ・カラオケ・ランチなど毎月のように一部の同期生が集まってゴソゴソしています。この1年間でのビッグイベントについて報告します。
(1)平成26年10月23、24日「七期会インなら」(参加者20名)

喜寿の会に 89人が参加に 昭32年卒

私達8期生(昭和32年卒)は今年77歳となり、喜寿を迎えました。それを記念し9月29日午後6時からホテルグランヴィアで同期会を開催、好天にも恵まれ、全国各地から89名もの仲間が馳せ参じました。

世話人のご配慮により、会場内には日の丸を挟んで旧広島一中と国泰寺高校の校旗が掲げられ、荘重な中にも懐かしい雰囲気が出されていました。物故者への黙とう・人生感こもる代表挨拶の後、懇親会となったが、お互いに高齢化が進んでいるのと、中には卒業以来の対面もあつたりして相手が誰か分からず、胸の名札を見て「オーお前か!」「まあ、○○さんね!」といった歓声が飛び交いました。さらにビールを飲み交わしながら懐旧談や近況報告の談笑が繰り広げられ、時間はアツという間に終幕に近づいてしまいました。

宇治在住の遠藤君のお世話で、法隆寺・薬師寺・興福寺・東大寺など古寺名刹をガイド付きで2日間じっくりと参拝し、改めて奈良の素晴らしさを堪能しました。

(2)平成26年11月14~15日「東京懇親会」(参加者32名)

各地から東京、上野精養軒に結集、洋食とワインで楽しい一時を過ごし、翌日は箱根遊覧観光で見事な紅葉を愛めました。

(3)平成27年1月8日「新年会」(参加者24名)

幹事の飯田君のきもいりでホテルグランヴィア広島のB1にある「江戸っ子」にて、海鮮鍋をつつきながらの乾杯で新春を祝いました。

(4)平成27年5月15日「総会・懇親会」(参加者58名)

恒例の年中行事。メルパルク広島のブルートパズの間を借り切り、増田さんと杉野森君の名司会に従って、逝去者の冥福を黙し、校歌を熱唱し、美味しい料理と種々のアルコールを飲食し、カラオケあり、ダンスありで、各地から集まってくれた同期生と旧交を深めました。

七期会の今あるのは、三十数年まえに当番幹事を務めてくれた多くの朋友の和のお蔭です。感謝! (山本 信一)

し廻りました。

かくて次は3年後、傘寿の年に再会することを申し合わせ、閉会となりました。

しかし、閉会後も名残りを惜しんで会場のあちこちで握手したり、肩を抱き合う姿が見られ、心地よい余韻が漂い続けました。こうした様子から、この同期会が私達の残された人生に向



かつて新たな希望と活力を与えてくれたことを確信しました。

次の日は、エクスカージョンです。

赤いカープ色の2階建オープンバスを借りきって、市内を巡回して、平和公園の慰霊碑で手を合わせたのち、懐かしい母校を訪問しました。

鯉城同窓会館では、出迎への八木会長から学校と同窓会の説明を聞き、しばし六十年前の在学当時に想いをはせました。

河田校長、八木会長、久保木事務局長のお見送りを受けてバスは正門から母校をあとにし、短い青春回帰を終えました。

(佐藤 馨)

久し振りに母校を訪れた昭和32年卒の同期生は立派な同窓会館に感激し、同窓会に十万円を寄付した。

35年卒といち会 琵琶湖周遊の旅 昭35年卒

待望の琵琶湖周遊の旅へ。8

回目を迎えた昭和35年卒(といち会)の同期会旅行、今回は以前から要望の強かった琵琶湖を一周する旅になった。平成27年11月6日、広島を貸切バスで出発、京都駅で関東、関西組と合流し総勢33名、地元大津市に住むの藤本明義君の案内で湖西を一路北上した。

比叡山の麓、こんこんと湧水のあふれる「針江生水の郷」で、今も日常の暮らしに密着した豊かな「水の文化」を実感。続いて日本陽明学の祖・中江藤樹の書院を見学、日本で最初の私塾



といわれ、現在の建物は明治になって再建されたものだが、深い人間愛と人の生きるべき道を説いた中江藤樹の心が息づいていた。

琵琶湖の最北端、高貴な人の隠れ里だったともいわれる秘境・菅浦の宿に到着。夕暮れの奥琵琶湖を望みながらの露天風呂、この上ないせい沢な一時だった。

翌日は長浜市高月町・渡岸寺の国宝十一面観世音菩薩立像を拝観。平安初期の作といわれ一木彫りの仏さまだが、腰をわずかにひねった姿勢はなんととも官能のお姿である。最後は近江商人誕生地の地・近江八幡を散策、江戸時代の街並みが色濃く残り、NHKの朝ドラの影響が大

(15頁へつづく)

変な人出でにぎわっていた。
還暦を機に始めた同期会旅行も8回目。さて次回はどこで同期の夢を結ぼうか。:

(伊藤 暉)

卒業し50年 乾杯の音頭

昭40年卒

昭和40年に卒業して50年が経過し、同窓会で壇上上がり乾杯の音頭をとる年齢になりました。全国に号令をかけた結果、39名が壇上に上がりました。総会前には同期会(四十会)を開催し、42名が参加し延べ48名(広島県外から17名)がリーガロイヤルに集合しました。卒業時の在籍者は388名で、全国に散らばっていますが、今でも60%近くと連絡がとれる状態です。その割には出席者が少なかったと反省しています。

36歳の時に同期の千葉稔君の店(東京)に集まり始め、40歳の時に四十会と命名して同期会を開催していました。仕事が忙しい年齢になり途絶えていましたが、2008年に再開し、東京大阪、広島の持ち回りで開催しており、毎回20~30人が集まり、昔話に花を咲かせています。懇親会では、壇上上がったことで、50年ぶりの後輩にも会

えて楽しい時を過ごしました。このような機会を与えていただいた同窓会幹部の皆様、当番幹事の平成4年卒の皆様へ感謝しています。

(志治正昭)

還暦を迎え 同期会盛大

昭48年卒

昭和48年卒業生の還暦の会を行いました。全員が還暦になった平成27年8月15日の土曜日にホテルグランヴィア広島において開催いたしました。

クラス会を毎年行っているクラスもあつたが、全体で会うのは、当番幹事の時からで、久しぶりの顔・顔・顔。でも、わからない顔は、卒業アルバムの写真と見比べて確認!思い出したかな?

参加者が少ないことを心配しておりましたが、世話人の皆さんが1年前から声をかけていたでいて、関東や関西からの参加者もあり、会場の収容人数より多い91名の同期生と恩師の朝川先生、山成先生、清水先生にもお越しいただきました。

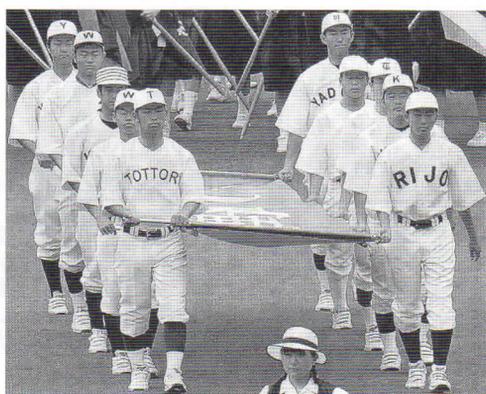
堀、有田さんの司会により、校歌斉唱が始まり、高校時代の写真をスライドショーにして鑑賞した後、恩師の含蓄のあるお話や、各自のコメントを挟み、



全員で「鯉城の夕」を歌い、元応援団の市川さんのエールで会を締め、おひらきとしました。が、名残惜しさに、一次会終了後もカラオケに多数なだれ込みました。

(昌子 均)

復刻ユニフォーム 「RIJJO」堂々行進



第1回大会出場時のユニフォームで入場行進する国泰寺の尾崎君(手前右=写真は中国新聞社提供)

は、3年尾崎駿君が鯉城にちなみ胸に「RIJJO」と書かれた真っ白いユニフォームを着て堂々の行進。他の9校の部員と「高校野球100年」の横断幕を持って入場行進の先頭を歩いた。尾崎君は「先輩への感謝の気持ちを胸に行進した」と感激していた。

復刻ユニフォーム

「先輩へ感謝」 母校の尾崎君

高校野球創設100年

「RIJJO」は、大会本部から母校に寄贈され、現在、同窓会館1階玄関のガラスケースに飾られている。

全国高校野球選手権大会は今年創設100年の節目を迎え、8月6日、甲子園球場で開催した第97回大会の開会式で、1915年の第1回全国中等学校優勝野球大会に出場した京都二中(現鳥羽高)など10校の現役部員が、当時の復刻ユニフォームで入場行進する記念イベントがあった。

また、「100年前の熱戦を再現したい」との企画が10校のOBらで進められ、国泰寺OBの山本将司さん(50)を中心に実行委を設立、今年12月19、20日に実現する運びとなった。当日は甲子園球場にOB500人が結集、復刻ユニフォームで100年前と同じ対戦カード広島中―鳥取中(現鳥取西高)で開幕、初戦5試合を再現する。

ご冥福をお祈りします

訃報欄を新設

同窓会会員や旧職員の物故者を対象にした訃報欄を新設した。今回、掲載させていただいたのは、昨年11月1日以降、今年10月末までに遺族ら関係者から同窓会事務局に連絡があった109人分。スペースの関係もあり、物故者の卒業年度順に、お名前だけを載せることにした。

掲載を希望されないケースなどについては、事情を踏まえて柔軟に対応させてもらった。今後に向けて、率直なご意見、ご要望などをうかがいたい。

荒巻 豊 (旧職員)
石井 巖 (旧職員)
定宗 一宏 (旧職員)
伊藤 和朗 (昭4年卒)
桂宗 平 (昭4年卒)
川口 隆二 (昭7年卒)
久保 繁 (昭8年卒)
隅田 一 (昭9年卒)
奈良井 浩 (昭9年卒)
東 正 (昭9年卒)
森貞 英之 (昭10年卒)
寺西 信美 (昭11年卒)
本正 雄 (昭11年卒)
沖地 正雄 (昭12年卒)
牧利 元雄 (昭13年卒)
平田 徳 (昭13年卒)
毛利 猛 (昭14年卒)
中村 吉 (昭14年卒)
津村 武 (昭15年卒)
松井 晃 (昭15年卒)
松村 正 (昭16年卒)
松田 恒 (昭16年卒)
明村 芳 (昭17年卒)
岡本 周 斌 (昭17年卒)

榎山 謙二 (昭17年卒)
井上 泰禅 (昭18年卒)
梶川 武彦 (昭18年卒)
田淵 一三 (昭18年卒)
三宅 法市 (昭18年卒)
久保 弘行 (昭19年卒)
清水 博 (昭19年卒)
関水 弘修 (昭19年卒)
高浜 隆彦 (昭19年卒)
中村 一彦 (昭19年卒)
橋田 度 (昭19年卒)
吉野 和 (昭20年卒)
米田 聖 (昭20年卒)
調子 昭雄 (昭20年卒)
中保 治郎 (昭20年卒)
原田 洋郎 (昭20年卒)
森川 憲明 (昭20年卒)
吉尾 実 (昭20年卒)
向井 啓一 (昭21年卒)
豊島 浩 (昭22年卒)
島山 豊成 (昭22年卒)
三浦 群 (昭22年卒)
上本 巖次 (昭24年卒)

中前 英司 (昭24年卒)
原見 泰司 (昭24年卒)
森野 恒三 (昭24年卒)
山崎 晃三 (昭24年卒)
色川 英夫 (昭24年卒)
梅本 純生 (昭24年卒)
高田 智水 (昭24年卒)
高山 哲郎 (昭24年卒)
高井 利大 (昭25年卒)
桜井 文子 (昭25年生卒)
森田 文子 (昭25年卒)
川本 豊鹿 (昭25年卒)
貞廣 進 (昭26年卒)
大野 和敏 (昭26年卒)
片山 伯彦 (昭26年卒)
佐伯 憲彦 (昭26年卒)
樋口 恵子 (昭26年卒)
片山 登 (昭28年卒)
原山 哲夫 (昭28年卒)
川本 大 (昭28年卒)
河村 美枝子 (昭29年卒)
篠崎 昭 (昭29年卒)
田中 郁也 (昭29年卒)
筒井 郁也 (昭29年卒)
原田 郁也 (昭29年卒)
若宮 健三 (昭29年卒)
杉川 健三 (昭30年卒)
高島 ひとみ (昭30年卒)
和邦 弘 (昭30年卒)
和邦 弘 (昭30年卒)
椋田 次郎 (昭30年卒)
江頭 次郎 (昭30年卒)
増永 剛章 (昭31年卒)
宮内 剛章 (昭31年卒)
福原 俊彰 (昭31年卒)
大橋 正典 (昭32年卒)
北垣 昭次 (昭32年卒)
本多 由紀子 (昭32年卒)

井沢 定昭 (昭33年卒)
高武 武男 (昭33年卒)
古浦 千穂子 (昭33年卒)
原井 邦暁 (昭34年卒)
大藪 泰司 (昭35年卒)
三宅 倭司 (昭35年卒)
柿本 脩三 (昭36年卒)
五林 茂典 (昭36年卒)
釘井 康雄 (昭41年卒)
坂本 孝治 (昭41年卒)
田内 敬造 (昭42年卒)
大矢 秀夫 (昭43年卒)
瀬田 陽子 (昭43年卒)
福原 和文 (昭44年卒)

伊藤 三千男 (昭47年卒)
本田 友造 (昭48年卒)
片山 秀喜 (昭48年卒)
向田 正良 (昭50年卒)
塚本 隆成 (昭51年卒)
井上 昌昭 (昭52年卒)
住田 智資 (昭53年卒)
今田 禮子 (昭54年卒)
西川 典子 (昭55年卒)
増原 龍也 (昭59年卒)
菅野 祐行 (平1年卒)
久保 西俊之 (平11年卒)
北原 真一 (平25年卒)

編集後記

少年3人の顔には、まだ幼さが残る。会報2面の写真は、福岡駿吉さん(同窓会副会長)ら当時の一中2年生。制服・制帽姿がりりしい。「あの当時のものは、この1枚しか残っていないくてね」。福岡さんをお願いして、アルバムから見つけ出してもらったのが、この貴重なワンショットだ。

昭和20年の春、市内の写真館で写したものという。カメラは普及していないし、戦局は厳しさを増す一方。入学式の記念写真撮影もなかった。写真といえ、1面の中一慰霊祭の写真も、印象に残る。右端に写っている白シャツの

方は、当時1年だった日山隆司さん(元同窓会広報委員長)。万全とは言えない健康状態を押して、今年も娘さんの介添え付きで参列された。毎年、万難を排して足を運ばれる日山さんの胸中に思いを馳せる。

福岡さんと日山さんは、ともに80代。追悼の辞を述べられた福岡さん、慰霊碑に合掌し花を手向けられた日山さん。その時のお2人の心には、制服を着た級友たちの姿が、去来したのではないだろうか。今号は被爆70周年記念特集号。編集作業を進めながら、同窓会の歴史や先輩方の思いの一端に触れ、作業の手が止まる瞬間があった。(大石)